

国立アレルギー・感染症研究所所長、科学者に対してH5N1 亜型鳥インフルエンザ
ウイルス研究の一時的停止継続を支持するよう要請 (7月31日)

国立衛生研究所 (National Institutes of Health : NIH) 傘下の国立アレルギー・感染症研究所 (National Institute of Allergy and Infectious Diseases : NIAID) のアンソニー・フォーシー所長 (Anthony Fauci) は 31 日、NIAID のインフルエンザ研究センターオブエクセレンス (NIAID's influenza research centers of excellence) の年次総会において、科学者による H5N1 亜型鳥インフルエンザ関連研究の自主的一時停止は、当分の間継続すべきであるが、同時に研究者は、重要であるが危険を伴う研究への支援を得るために、より広く社会に働きかけるための努力を惜しんではならないとの見解を明らかにした。

さらに同所長は、一時停止措置を解除する前に科学者にはやるべきことがあるとし、その例として、科学者が自然界で発見されているものより病原性の強いインフルエンザウイルスを生成し研究する「機能獲得型 (gain-of-function)」と呼ばれる実験や、フェレットのような小動物に感染するウイルスはサルにも感染するかどうかの試験、免疫システムがウイルスにどう反応するかの研究などを挙げた。

また同所長は、NIH 関係者を含む省庁間委員会が、危険性を伴うデュアルユース研究の実施における指針となる「DURC (dual use research of concern) ガイドライン」を作成中であり、近いうちにパブリックコメントを募集するために公開する予定であることを明らかにした。

Science Insider, U. S. Infectious Disease Chief Urges Flu Scientists to 'Engage,' Support H5N1 Research Moratorium

<http://news.sciencemag.org/scienceinsider/2012/07/us-infectious-disease-chief-urge.html>